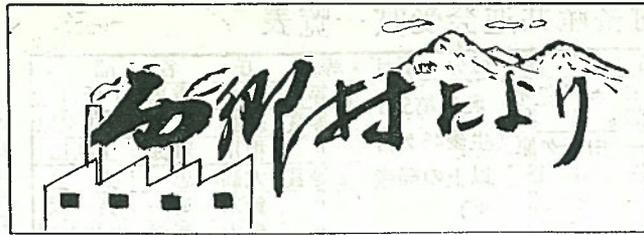


西郷村の人口及世帯数  
(44. 9. 1現在)

世帯数	2,199
人口	10,496
男	女
5,152	5,344



発行日 昭和44年9月30日

発行所  
西郷村役場  
(電話磐城熊倉)  
1番・2番・7番  
編集発行人  
企画課  
印刷所  
ワタベ印刷所

# 畜産共進会は第三回に

## 西郷の牛の美質表わる

去る九月三日、西郷村第三回畜産共進会が折口原の農学校跡で開かれました。出陳頭数は、乳牛七十四頭、肉用牛二十九頭、計百三頭で、白河家畜保健衛生所長外十五名の審査員による三回畜産共進会の結果、別表のような受賞牛が決定されました。

成績は講評にあるとおり、又今回は、新しく多産が表彰され、村有貸付牛優良農家として、上野原の人見フミノさんが、その熱心な飼育管理によつて表彰されました。

更に、本大会で、肉用牛第二部の優等賞を受けた、柏野の鈴木光夫さん所有の「かめ号」は郡の畜産組合主催の共進会において、優等賞を受け、県の共進会への出場資格を得ました。



以下、審査長の講評を記載させていただきます。

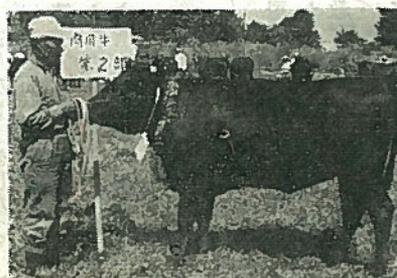
### 講評

白河家畜保健衛生所長  
小野 尚男

第三回西郷村畜産共進会の開催にあたり、審査員を代表して審査報告をいたします。

乳牛の部、一、二、三部とも若牛であるが、月令に応じた発育と肋張り、四肢の丈夫さは他の地区に見られない最もよい点である。特に二部は、品種の特徴をそなえ、活気があり、鋭角的で伸び伸びとした牛が多く、将来の中堅としての期待を持たれた。しかし三部の牛の中に、若干背線のわるいものが散見されたのが気にかかったが、この月令の牛は、種付、妊娠という大切な時期、飼育管理の最も大切なときであるので、良質牧草の多給と運動を一段と励行された。

写真 肉用牛第二部優等賞  
(郡畜産組合主催共進会 優等賞)



乳器の資質、乳房の容積は良好であるが、垂れ乳房など、附着力の強いものに改良されたいものが散見された。

以上、乳用牛を総合的にのべると、各部とも発育良好で乳用牛としての特徴をもち、雄大さと飼料の高い利用性を表わす牛が多く、村を挙げて、改良に努力している姿が如実にあらわれ、将来の西郷村の酪農が期待されて、誠に力強い極



西郷村畜産共進会受賞一覧表

Table with columns for award category (e.g., 乳牛第1部), grade (e.g., 優等賞), name (氏名), and village (部落). It lists various winners and their details across different livestock categories.

みである。肉用牛については、黒毛和種が役肉兼用から肉用専門に改良されてから未だ十年、現在改良の段階であるが、肉用種として改良の要求されることは、背幅があり、肋腹が張り、胸が深く後軀が充実して腿の厚いものである。

すると、肉牛としての資質は良好であるが、一般に前軀はよいが、一番よい肉が多量に生産される後軀の発育が見劣りした。又、運動不足のせいから蹄の比較的弱いものがあつたので、良質飼料の多給と運動により、後軀の充実と跛蹄の強健を図られた。

肉用牛は乳用雄肥育の審査基準がまだ決定されておらず、肉用去勢牛審査基準を準用して、①肉用牛に要求される生体重、②肉の付き具合、③脂肪のり

具合、幅、厚みについて審査したが、全体的に生体重が足らず、肥育が浅く、脂肪のつき具合が足りなかつた。

以上、総合的にみると乳用牛、肉用牛ともに生き生きとして、各家畜とも、その品種の特徴と特質を表現し、肋腹深く、肋骨よく、開張して他地区でみられない西郷村の家畜の美点を表わしている。

このことは、村当局の熱意と飼育者の意欲の結晶と思われる。

集団献血で大臣賞 西郷村三年間の成果

わが村が、献血推進協議会による集団献血で、村としては、県下一の好成績を上げ、厚生大臣賞を受けました。昭和四十一年に献血推進協議会が結成されて以来、四十二年には百十人、四十二年には百十四人、今年八月十九日に百五十人の献血があり、毎年百人をこえる実績を上げました。村民の善意と関係者の努力のたまものです。

健康な人が、一年に一度くらい献血するのは無害であるといふもの、忙しい時間をさいて、自分の血を提供するということは、やはり、よほどの善意がないとできないものです。しかし、年々激しさを加

える交通戦争や、ガンや胃病などの手術の増加によつて、いつ、自分や近親者が輸血を必要とする事態に遭遇しないとも限りません。これを機会に一そり献血

故人のご遺志で 教育振興にご寄付 故西郷村教育長鈴木清司氏の長男、鈴木健吉氏から故人のご遺志により教育振興に役立てて下さいと、村に金拾万円也のご寄付がありました。つしんでお知らせいたします。

西郷村教育委員会教育長鈴木清司氏は、かねて入院加療中でしたが、八月末頃からにわかには重態となり、ご家族の手厚い看護も空しく三十一日昼過遂に永眠されました。氏は昭和三十六年十月一日から現在に至るまで八年間教育長の要職にあつて活躍され、特に熊倉小学校の統合、各学校の校舎、屋体等の整備など種々の難問の処理に大きな功績を残されました。又教育長就任以前からも既に昭和十七年三十六才の若さをもつて、村議会議員に選ばれ、以来村会議長、西郷村森林組合常務理事、西郷村固定資産評価員、阿武隈川上流土地改良区監事等々数々の要職を歴任され、県

道津羽津島白河線の新設手網坂の工事には私財を投じて完成に努める等、生前、公共の福祉に貢献された功績は偉大なものがあります。氏の温厚誠実な人柄は村民多くの敬慕するところであり、誠に哀惜にたえません。



教育長 鈴木清司氏永眠さる

の意義を理解し、健康な人は、恵まれてる健康に感謝する意味でも、年に一度くらいはふるつて献血しましょう。

× ×

× ×

× ×

× ×

### 役場庁舎建設のアンケート

建設調査研究委員会の発表

村役場庁舎建設の問題については、既に昭和四十二年七月、村議会内に、新庁舎建設調査研究特別委員会が設けられ、調査研究が進められて来ましたが、以来二年余りになります。庁舎はいよいよ手狭になり、又駐車場もなく、新築に対する各界の要望はいよ／＼高まりつつあります。

新庁舎の建設はいうまでもなく、これからの西郷村

の発展のために、村民の福祉のために、最もよい位置によい設計で建てられるべきです。しかもそれは、村民の皆さんの納得の行く線で、円満に進められねばなりません。

そのためには、調査の結果を、村民の皆さんによく知って頂き、又皆さんの声をよくきき、ガラス張りの明朗な運営が最も大切であると思えます。

### 西郷村役場庁舎建設計画アンケート集計表

西郷村役場の新庁舎を建設するとしたらあなたはどうか考えますか。

○ 賛成である	1,064
○ 反対である	187
○ 白紙	4
計	1,255
配付	2,143
回答	(58%) 1,255

### 賛成者の理由の集計

理由位置	交通の便が良	将来性がある	土地買収容易	その他	計
現在位置	14	5	12	23	54
萱山(有放本部の場所)	112	122	30	26	290
甲子道沿い	364	254	8	39	665
その他の地区	17	15	3	20	55
計	507	396	53	108	1,064

### 反対者の理由内訳

1. 時期尚早である	36
2. 現在の施設を増改築すればよい	82
3. 費用がかかる	52
4. その他の理由	17
計	187

ここに、昨年度皆さんから出して頂いた、庁舎建設に関するアンケートの集計

### 若い農業者の集い

#### はりきる西郷の青年たち

去る七月二十六日から三日間、二本松市、岳スキー場で、第三回の「福島県若い農業者の集い」が開催されました。県下の農業後継者約二千三百名が集まり、キャンプ生活をとおして、日頃実践研究している農業技術や、生活技術の成果を交換し合い、団結と友情を

深める意義深い三日間を送りました。

本村からも

- 遠藤 富男 熊倉
  - 安治 一 長坂
  - 近藤喜一郎 下羽太
  - 近藤富美男 //
  - 金田 孝夫 馬場坂
  - 須藤 好道 熊倉
  - 尾股 完治 赤淵
- の七名が参加し、その積極



的な活動は、付添って行った村職員も目を見張って感心していました。

特に、各班に別れての話し合いの際には、いづれも自然とそのグループのリーダーになるありさまで、その発言の内容、その気魄とともに、多くの青年の中にあつて光るものがありました。

現在転期に立つ農村云々が叫ばれ、と角浮足立っている農村の中にあつて、いづれの方向に進むにせよ、青年の意気と活力は、将来の村の盛衰を占う重大な鍵となりましょう。

わが村の青年達が多くの青年の中にまじつてめざましい意気と活力を示したことは、力強い限りです。

村の活力は青年を育て、青年の活力は村を育てます。

西郷青年よ  
がんばれ！

「写真」本村よりの若い農業者のつとよい出席者

### 村内三橋の渡橋式

いづれも永久橋完成

昭和四十三年度県事業として、県道舟津羽鳥白河線(羽太道)に羽太橋、金花橋の二橋が、村事業として阿武隈川に下熊倉橋が、いづれも永久橋で完成しました。前はどれも木橋で、修理、荷重制限を繰返して来ただけに、交通機能の大幅なアップが実現したわけです。

八月二十六日、完成を祝い、今後の安全を祈念して県村関係者、来賓による渡橋式が行なわれ、地元の三夫婦(下羽太の鈴木重次・ハナ、重晴・シツエ、晴雄・トミ子の三夫婦)を先頭に百二十人がおそかに渡り初めを行いました。

羽太橋の架換工事は昭和四十二年、四十三年の両年度にかけて四千五百四十五万円の事業費で、今年三月二十五日完成しました。橋長八四・一五メートル、橋幅八メートル、本村の最長の橋となりました。

金花橋はこれも四十二年、四十三年の両年度にわたり事業費一千四百三十万五千円で完成、橋長二九・五メートル、橋幅八メートルです。

下熊倉橋は前号にお知らせしたとおりです。

